宮川　實著

新経済学入門

諸社会の経済的発展法則

社会科学書房

宮川實　経済学著作集　I

新経済学入門

諸社会の経済的発展法則

社会科学書房

著者略暦

1896年　山口市に生まれる
1923年　東京大学法学部卒業
1952年　労働者教育協会設立に参加
現　在　労働者教育協会名誉会長・勤労者通信大学学長
主著書　『資本論講義』『マルクス経済学辞典』『カール・マルクス』『資本論学習要綱』『資本論論争』
翻訳『資本論全巻』

新経済学入門

1983年9月5日　第1刷
1984年7月10日　第2刷

著　者　宮川　實
発行者　佐藤成一

発行所　社会科学書房
東京都墨田区両国3−24−7−802
電話・東京（632）1448
郵便番号　130

印刷　藤原印刷株式会社

序

この『新経済学入門』は、旧著『経済学入門』をわたくしの現在の立場にたって全面的に書きなおしたものである。旧著『経済学入門』は、終戦直後わたくしがおこなった講演の録音を印刷に付したものである。はじめ研進社から出版し、その後青木書店から出版し、青木書店に移してからも何回も改訂増補した。全部で数十万の人びとに読まれた書物である。この新書では、ことに資本主義よりまえの諸社会にかんする部分と、商品にかんする部分と、全般的危機にかんする部分とは、まったく新しく書かれてある。この『新経済学入門』も、旧著のように、――旧著を読まれた人びとによっても――読まれることを、期待する。

この書物には入門書であるために個々の理論の原典が指示してないが、わたくしの『新経済学講義』にはすべての理論の原典が指示してある。

一九八三年二月

宮川　實

目次

序文

第一部　資本主義よりまえの諸社会……一

一　地球の創成……三

先地質時代と地質時代（三）　地球はどうしてできたか（三）　地質学者は地質時代を五つの時代に区分する（六）

二　人類の発生……七

類人猿の手と足との機能が分離し、直立歩行するようになった（七）　生産のために道具をつくるようになった（八）　人間の発生は社会の発生であった（八）　労働は言語を発展させた（九）　労働は脳髄と思考を発達させた（一〇）

三　原始社会……一〇

石器時代（一〇）　原始社会の生産関係（一一）　原始社会の社会関係（一二）　日本の原

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

始社会（一二）　なぜ原始共産制社会は奴隷制社会に移行したか（一三）
四　奴隷制社会……一四
奴隷制社会の構造（一四）　日本の奴隷制度（一五）　奴隷制社会はなぜほろびたか（一六）
五　封建制社会……一七
封建制社会の構造（一七）　封建制社会はどうして奴隷制社会から生まれたか――原始的なコース（一七）　西ヨーロッパのコースの特殊性（一八）　封建社会はなぜ亡びたか（一九）　封建社会の初期には搾取に限界があった（一九）　そのため農民は生産力を高めた（一九）　商品生産と商品流通が発展すると搾取は無制限に強化された（一九）　そのため生産力の発展が阻止され、農民の闘争が発展した（二〇）　封建社会の胎内で資本主義的生産はどうして発生したか（二一）　第一の道――小商品生産者が分離して産業資本家になった（二一）　第二の道――商人が小商品生産を支配することによって産業資本家になった（二二）　第一の道だけが革命的であり第二の道は古い生産様式で保存してじぶんの前提にする（二三）　小商品生産から資本主義的生産が生まれる過程は緩慢であって、新しい世界市場の要求にそえなかった（二三）　絶対主義国家（二三）　資本の本源的蓄積または原始的蓄積（二五）　絶対主義国家はどうして大量の賃金労働者を短期間につくりだしたか（二五）

第二部　資本主義社会……二九
第一章　資本主義発展の諸段階……二九
第二章　資本主義的生産の基礎および前提（その一）……三五
資本主義的生産は商品生産である（三五）　資本主義的社会ではすべての生産物が商品になっている（三六）　原始共産制社会の生産物は商品になる必要はなかった（三七）　奴隷所有制社会の生産物も商品になる必要はなかった（三七）　封建制社会の生産物も商品になる必要はなかった（三七）　資本主義社会ではなぜすべての生産物が商品とならざるをえないか（三八）　資本主義社会では総労働時間を生産諸部門に適当な割合で配当しなければならない（三九）　図による説明（四一）　具体的労働（四四）　抽象的人間労働（四五）　価値法則（四七）　価値法則は価格の変動をとおして自己を貫徹する（四八）　商品の価値と労働の生産性（四九）　簡単労働と複雑労働（五〇）　商品は価値と使用価値との統一である（五〇）　交換価値は価値の現象形態である（五一）　簡単な価値形態（五二）　展開された価値形態（五三）　一般的価値形態（五四）　貨幣形態（五四）　なぜ金が一般的等価物たる地位を独占したか（五五）　価値形態についての要約（五五）　価

値法則の作用（五六）

第三章　資本主義的生産の基礎および前提（その二）……五九

一　貨幣のはたらき……五九

価値尺度たるはたらき（五九）　価値尺度たるはたらきには現実の金は必要でない（六〇）　価格の基準（六一）　商品の変態と商品の流通（六三）　流通手段たる金のはたらき（六四）　流通手段としての金の流通必要量（六四）　金貨の流通（六五）　金属補助貨幣（六六）　紙幣の流通（六七）　蓄蔵貨幣としてのはたらき（六八）　支払手段としてのはたらき（六八）　支払手段としての金の流通必要量（六九）　金の流通必要総量（六九）　世界貨幣としての金のはたらき（七〇）

二　インフレーション……七〇

インフレーションとはなにか（七〇）　金または兌換銀行券が流通しているときはインフレーションはおこらない（七二）　貨幣の流通速度がはやくなる（七三）　商品価格の総額が小さくなる（七三）　独占資本はなぜインフレーションによって利益をえるか（七四）　インフレーションによる価格騰貴は不均等だからである（七四）　インフレーションは大衆課税だからである（七六）　インフレーションの社会の各層におよぼす影響（七八）

第四章　剰余価値の生産……八〇
一　剰余価値はどこから生まれるか……八〇
資本主義的生産は剰余価値の生産である（八〇）　資本家のもうけは流通ではうまれない（八一）　資本家のもうけは生産過程で生まれる（八二）　剰余価値は生産過程でどうして生まれるか（八三）　労働力の価格はなににによってきまるか（八五）　平均的労働者の生活費（八五）　家族の生活費をふくむ（八五）　生理的生活費部分（八六）　文化費部分（八七）　修業費部分（八九）　資本家の利益と労働者の利益とは相反する（九〇）
剰余価値の歴史性（九〇）　戦後日本の剰余価値率（九三）
二　剰余価値を高める諸方法……九四
労働時間の延長（九四）　日本における労働時間の延長（九六）　労働の生産性の増大（九六）
生産性が高まると個別資本家の剰余価値率が高まる（九七）　労働の生産性が高まると資本家階級全体の剰余価値率が高まる（九八）　資本とはなにか（一〇一）　剰余価値の法則は資本主義の基本的経済法則である（一〇一）
第五章　剰余価値率を高める手段としての労働過程の変革……一〇三
資本主義的単純協業（一〇三）　資本主義的単純協業は労働の生産性を高める（一〇四）　マ

ニュファクチュア（一〇四）　マニュファクチュアは二つの仕方で発生した（一〇五）　マニュファクチュアはなぜ生産性を高めるか（一〇六）　マニュファクチュアの労働者は技術的にも資本家に従属する（一〇七）　マニュファクチュアでの生産性の向上には限界があった（一〇七）　産業革命（一〇七）　機械はなぜ労働の生産性を高めるか（一〇八）　機械は労働時間を延長する（一〇九）　機械は労働強化の手段となる（一一〇）　機械は婦人労働と児童労働の使用を可能にした（一一一）　資本主義のもとで機械が使用される限界（一一二）

第六章　剰余価値率を高める手段としての賃金支払方法 …… 一一三

労働力の価格と労働の価格（一一三）　労働力の価格はなぜ労働の価格にみえるか（一一五）　時間賃金は賃金の基本形態である（一一六）　時間給制（一一六）　時間払賃金と労働の強化（一一八）・個数賃金（一一八）　個数賃金はなぜ資本家にとって有利であるか（一一九）　個数賃金は労働者にとって不利益である（一二〇）　資本家は時間賃金と個数賃金の双方を利用する（一二〇）　割増賃金は個数賃金の最悪の形態である（一二一）　テーラーシステム（一二二）　ハルシー割増制（一二三）　ローワン割増制（一二四）　組請負制度（一二四）　報償金制度（一二四）　年功型序列賃金（一二六）　職務給（一二七）　残業（一二〇）　利潤参与制（一三〇）　同一労働同一賃金の原則（一三一）　社会主義の下における賃金（一三四）　賃金の国際的差異（一三五）　名目賃金と実質賃金（一三六）

第七章　資本蓄積の一般的法則……一三七
生産は再生産である（一三七）
一　単純再生産……一三八
労働者階級は労働者階級として再生産される（一三八）　資本はすべて蓄積された剰余価値である（一四〇）　資本家階級と労働者階級との関係が再生産される（一四一）　どの社会でも再生産は階級関係の再生産である（一四一）　労働者は私的生活をしているあいだも資本家に従属する（一四二）
二　拡大再生産……一四四
資本主義的再生産は拡大再生産である（一四四）　資本の集積と集中（一四四）　追加資本はすべて剰余価値からなる（一四五）　資本の構成（一四七）　資本構成はこれと別の意味にも用いられる（一四八）　資本の蓄積は不可避的に資本の構成を高める（一四八）　可変資本はかならず絶対に減少するわけではない（一四九）　労働力に対する需要は蓄積のすすむにつれて相対的に減少する（一四九）　資本の蓄積は必然的に失業者をつくりだす（一五〇）　失業者は資本蓄積の結果であると同時にその条件でもある（一五一）　失業者はどんな役割をえんじるか（一五一）　産業予備軍（一五二）　失業の種類（一五二）　資本主義的蓄積の一般法則（一五四）　労働者階級の絶対的窮乏化は存在しないか（一五五）　失業者と植民地の労働者をふくめて見なければならぬ（一五七）　貧乏は人口が多いから生

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

じるという理論（一五七）
三　本源的蓄積……一五九
本源的蓄積とはなにか（一五九）　賃労働者はどうしてつくりだされたか（一六一）　貨幣資本はどうして蓄積されたか（一六二）
第八章　剰余価値の分配……一六四
一　平均利潤率の形成と平均利潤率低下の傾向……一六四
剰余価値は各種の資本家のあいだに分配される（一六四）　利潤と利潤率（一六五）　生産部門によって資本の有機的構成がちがう（一六六）　平均利潤率の形成（一六七）　生産価格は価値の転化された形態である（一六九）　資本家階級全体が労働者階級全体を搾取している（一七〇）　平均利潤率の法則（一七一）　資本の回転率（一七三）　平均利潤と超過利潤（一七三）　平均利潤率低下の傾向（一七三）　平均利潤率の低下を阻止する要因（一七四）　平均利潤率低下の傾向のもたらす結果（一七五）
二　商業利潤……一七五
商業利潤の源泉（一七五）　商業労働者の賃金はなにから支払われるか（一七七）
三　貸付資本の利子……一七八
貸付資本（一七八）　利子とはなにか（一七九）　利子率はなにによってきまるか（一七九）　利子率低下の傾向（一八〇）　銀行従業員の賃金（一八〇）

四　いままでの総括……一八〇

第九章　地代と農業における資本主義……一八二

一　資本主義的農業……一八二

剰余価値の一部分は地主の手にはいる（一八二）　資本主義的農業（一八二）

二　差額地代……一八三

地代とはなにか（一八三）　差額地代の第一形態（一八四）　土地の肥沃度も位置も変化する（一八七）　差額地代の第二形態（一八七）

三　絶対地代と独占地代……一八九

絶対地代とはなにか（一八九）　絶対地代はどこから生まれるか（一九〇）　独占地代（一九一）

地代と農産物の価格との関係（一九二）

四　土地の価格と土地の私有……一九二

土地の価格（一九二）　土地の私有は生産力の発達を阻害する（一九三）　土地の国有（一九三）

五　封建的地代と農業における資本主義の発生……一九四

資本主義的地代と封建的地代とは異なる（一九四）　封建的地代（一九五）　労働地代（一九五）

生産物地代（一九六）　貨幣地代（一九六）　封建的地代から資本主義的地代への移行（一九七）

第十章　国民所得の分配……二〇二
国民所得とはなにか（二〇二）　物質的財貨の生産部門だけで国民所得はつくられる（二〇三）　小商品生産者も国民所得をつくりだす（二〇三）　国民所得の分配（二〇三）　国民所得の再分配（二〇五）
第十一章　社会総資本の再生産……二〇七
個別資本の循環はたがいにからみあっている（二〇七）　社会総資本の再生産のための条件（二〇九）　単純再生産のばあいの実現の条件（二一〇）　拡大再生産のばあいの実現の条件（二一四）　拡大再生産のばあいには第一部門が第二部門より大きくなる（二一六）　資本主義的拡大再生産の矛盾（二一七）
第十二章　過剰生産恐慌……二一九
資本主義的拡大再生産は産業循環の形をとっておこなわれる（二一九）　恐慌とはなにか（二二〇）　恐慌は資本主義以外の社会にはおこらない（二二一）　恐慌の可能性（二二二）　恐慌はなぜ必然的におこるか（二二三）　恐慌の原因にかんする誤った理論（二二六）　産業循環の諸局面（二二七）　恐慌の周期性の物質的基礎（二二〇）　軍備拡張と恐慌（二二〇）　外国貿易と恐慌（二二二）　各恐慌はそれぞれ歴史的特殊性をもっている（二二三）　農業恐

慌（二三三）

第十三章　産業資本主義の独占資本主義（帝国主義）への移行……二三六

一　生産の集積と独占の形成……二三六

産業資本主義の帝国主義への移行（二三六）　なぜ大資本は小資本に勝つか（二三七）　株式会社の役割（二四〇）　生産の集積と独占の形成（二四二）　独占組織の諸形態（二四二）　生産の社会的性格と取得の私的資本家的形態との矛盾がふかまる（二四五）　独占は競争をはげしくする（二四六）　組織化された資本主義の理論（二四七）

二　銀行の新しい役割……二五一

銀行ははじめは商業信用のはたらきを助けることを任務とした（二五一）　銀行信用の発展（二五二）　銀行の証券発行業務（二五四）

三　金融資本と金融少数支配制……二五七

産業資本の集積集中は銀行資本の集積集中をもたらす（二五七）　産業資本と銀行資本とは癒着して巨大な金融資本となる（二五八）　金融資本（独占資本）支配の方法（二五九）　金融少数支配制（二六一）

第十四章　独占的高利潤の法則……二六四

独占的高利潤の法則（二六四）　独占資本は国内で搾取と収奪を強化する（二六六）　後進

国の隷属化と系統的な掠奪（二六九）　独占資本は後進国を自立的に発展させない（二七一）
帝国主義戦争の不可避性（二七三）　戦争と戦争準備は独占高利潤の源泉となる（二七四）

第十五章　帝国主義の歴史的地位……二七五

帝国主義は寄生的な腐敗しつつある資本主義である（二七五）　帝国主義は死滅しつつある資本主義である（二七九）　資本主義発展不均等の法則（二八〇）

第十六章　資本主義の全般的危機……二八四

一　全般的危機の第一段階……二八四

全般的危機への移行（二八四）　全般的危機とはなにか（二八四）　全般的危機と発展不均等の法則（二八五）　全般的危機の第一段階のおもな特徴（二八六）　世界の二つの体制への分裂（二八六）　帝国主義の植民地体制の危機（二八七）　市場問題の激化（二八八）　全般的危機の第一段階の三つの時期（二九〇）　第一の時期（二九〇）　第二の時期――資本主義の相対的安定の時期（二九一）　第三の時期――戦争と革命の時期（動乱の時期）（二九二）

二　全般的危機のいっそう深まった第二段階……二九二

第一の時期（二九三）　社会主義世界体系が形成された（二九三）　独占資本の本国では資本主義経済を復興した（二九三）　アメリカの援助（二九三）　国家独占資本主義（二九四）　植民地従属国では新植民地主義を採用した（二九六）　帝国主義の植民地体系の崩壊がはじ

まった（二九六）　その理由（二九六）　新植民地主義（二九七）　経済の軍事化（二九八）　資本主義発展不均等の法則の作用がはげしくなった（二九八）　全般的危機の第二段階の第二の時期（二九九）　社会主義が資本主義にたいし優位に立つようになった（二九九）　植民地体制の崩壊がほとんど終った（三〇〇）　資本主義のなかでのアメリカの優位がうしなわれた（三〇一）　国家独占資本主義が強化された（三〇二）　科学技術革命の利用（三〇三）　生産と資本の巨大な集積と集中をもたらした（三〇六）　大型合併（三〇六）　国家の介入（三〇七）　コングロマリットの形成（三〇七）　多国籍企業の発展（三〇八）

三　全般的危機のもとでの恐慌と産業循環の形態変化……三〇九

全般的危機は産業循環の形態を変えただけである（三〇九）　全般的危機の第一段階（三〇九）　市場問題の激化の影響（三一〇）　国家独占資本主義が発展した国の産業循環（三一一）　全般的危機の第二段階（三一一）　社会主義世界体制の影響（三一一）　植民地体制の崩壊の影響（三一四）　国家独占資本主義の影響（三一五）　戦争と経済の軍事化の影響（三一六）　オートメーション化のおよぼす影響（三一九）　労働手段の変革の段階（三一九）　機械化（三一九）　総合機械化（三一九）　個々の機械の自動化（三二〇）　オートメーション（三二一）　スタグフレーション（三二二）

四　第二次大戦後資本主義が変ったという理論……三二二

人民資本主義の理論（三二三）　経営者革命の理論（三二四）　内部留保の理論（三二五）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com